

「レジャー・レクリエーション研究における基本書」特集にあたって

編集委員会

この特集は、当学会内の異なった専門分野を持つ研究者間の相互理解をより一層深める目的で企画されました。周知の通り、レジャー・レクリエーションに関わる研究分野は非常に学際的であり、多岐にわたっています。

1987年、このようなレクリエーション研究の全体像を明らかにするために、当学会は総力を挙げて「レクリエーション学の方法（ぎょうせい刊）」を執筆編集しました。この本により、「歴史と原論」、「意識と行動」、「活動とプログラム」、「サービスと運営管理」、「資源と空間」、「政策と運動」という6つの分野から、レクリエーション学の研究動向・方法が体系的に示されました。そして、この本は未だに当分野を学ぶ研究者のためのバイブル的存在になっています。

しかしながら、この本が発刊されてから今年で丁度10年の月日が経過しようとしています。この10年の間に時代は昭和から平成へと移り、レジャー・レクリエーションを取り巻く社会的環境が大きく変動しました。例えば、リゾートブーム、海外渡航者の急増、バブル景気とその崩壊、労働時間の短縮、学校の週5日制の導入など、思いつくままに挙げるだけでも多くの社会現象が見られました。また、研究環境についても、例えばこの10年でコンピュータが著しく発達し、今ではインターネットで世界各国の研究者たちとリアルタイムで研究交流が行える時代になってきました。

このような状況の中、必然的に個々の専門分野が深化・発展を遂げました。個々の専門分野が深化・発展することは非常に喜ばしい限りなのですが、その一方で、個別分野の細分化が進み、且つ1分野の情報量が非常に増加したため、専門外の研究分野の体系や枠組みが把握しづらくなったこともまた事実です。

以上の状況を鑑みて、学会内の異なった専門分野を持つ研究者たちの間で効果的な意志疎通を行う手助けとなる様、レジャー・レクリエーション学の各専門分野における基本書とは何かについて今一度とりまとめ、学会会員にわかりやすく紹介する主旨の特集が企画されました。

本特集は下記の通り、①本学会の理事を対象とした基本書に関するアンケート調査の概要及び、②各専門分野に造詣の深い方々による小論、の2つを大きな柱としています。この特集が、レジャー・レクリエーション研究の健全な発展に役立つことを祈念しております。

アンケート調査の概要	田中伸彦
原論・歴史・本質論（レジャー・レクリエーション論）研究の分野から	鈴木秀雄
活動・行動研究分野から	高橋和敏
「環境計画」空間・環境形成研究（造園学）の分野から	前野淳一郎
政策研究分野から	須賀由紀子・松田義幸
プログラム開発とその展開に関する研究分野から	坂口正治
レジャー・レクリエーション研究における社会福祉のとらえ方	石井 允・片桐義晴
わが国レジャー産業研究の足跡	嵯峨 寿
社会学・経営学研究分野から	山口泰雄・永松昌樹